

「札幌市森づくり基本方針（案）」の概要

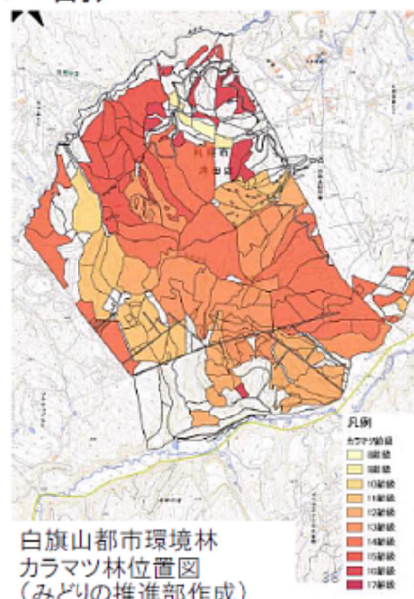
抜粋

8. 将来像実現のための取組－①白旗山都市環境の拠点機能強化－

白旗山都市環境林（1,061ha、市有林の5割）

- 人工林の面積が大きい
（政令指定都市でこれほどの市有の人工林を有しているのは札幌市のみ）
- 緩勾配で路網が発達
（人工林施業に適している）
- 多くの市民が利用（普及啓発等が望める）

▶ レクリエーション機能の拠点「ふれあいセンター」



白旗山都市環境林の拠点機能強化

白旗山都市環境林のポテンシャルの高さを活用

▶ これほど広く、都心に近く、人工林に適した市有林があるのは政令市で札幌市のみ

多様な施業を行う森林整備、森林と木材利用の普及啓発、森林を活用したウェルネスの推進等、本方針の取組全体を体現するモデル的な森林として、最大限活用

(1) 多様な施業方法による森づくり

- ▶ 人工林経営を進める
- ▶ 研究機関との協働

(2) 散策路の利活用

- ▶ 林業を感じられる利用しやすい散策路
- ▶ スキーコースとしての一層の活用

(3) 白旗山産材事業の検討

- ▶ 普及啓発等に効果の高い特別な用途

(4) 大学や研究機関、企業、ボランティア団体など、多様な主体との連携

(5) 林業の担い手育成の場としての活用

推進体制の確保

(1) 林野庁、北海道、大学との連携

(2) さっぽろ連携中枢都市圏における連携

(3) 市の体制強化と職員の技術力向上

これが現場の姿です。→
■撮影
2023.11.26

